

まねきねこ

2005年春・第4号 ヘルスケア関連団体のネットワークづくりを支援する情報誌



人とのつながりを大切に

まねきねこ

ごめいせい

『まねきねこ』の読者のみなさん、こんにちは。

アラン・B・ブーツの後任として、3月より代表取締役社長に就任したソーレン・セリンダーです。私は、豊かな教養と文化を持つ日本のみなさんとともに活動することを、とても光栄に思っています。

ヘルスケア関連団体のネットワークづくりは世界的な潮流であり、ファイザーは世界各地で支援活動を行っています。日本でも「最も成功し、最も尊敬されるヘルスケアカンパニーをめざす」という目標を掲げて支援活動を行ってきました。私もこの流れを受け継いで、ヘルスケア関連団体のネットワークづくりや支援活動に積極的に取り組みたいと考えています。

また、私には看護師や看護教員の経験がありますので、患者さんやご家族と身近に接してきた、その経験や視点をぜひ役立てていきたいと考えています。

この『まねきねこ』は、ネットワークづくりのいわば「新芽」です。みなさんとともに作る情報誌として、『まねきねこ』が大きく育ち、ヘルスケア関連団体に、そして、日本の医療に役立つものとなってほしいと心より願っています。

ファイザー株式会社

代表取締役社長 ソーレン・セリンダー



ヘルスケア関連団体・冬の活動報告

最近、各地区の交流会において、単に情報を交換する・共有するという内輪の活動から、患者の思いや患者団体の情報を医学教育に取り入れてもらうという外側へ向けた活動が盛んになってきています。各地域で行われた「よりよい医療の推進」への取り組みを紹介します。

第3回ヘルスケア関連団体 関西地区交流会 in 兵庫 (1月29日)

医療者を変える「効果的な講演」をめざして

1月29日、第3回ヘルスケア関連団体関西地区交流会が兵庫県尼崎市で開催されました。前回の関西交流会では、「医学教育に患者の声を組み込むこと」をテーマに活発な議論が行われました。そこで今回は、どのようにすれば患者の思いや患者

団体が保有する情報・知識を医療者に的確に伝えることができ、患者と医療者のギャップを埋めることができるのか、医療者の態度変容に結びつけるようにするには、どのように工夫すればいいのか：など具体的なテーマを検討する勉強会となりました。まず、「小さいのちの会」の坂下裕子氏が医療の発展に役立つことをめざした、効果的な講演内容について語り、さらに、各団体によって考えた「たたき台」の発表をもとに参加者全員による議論が行われました。関西交流会が取り組んできた「医学教育に患者の声を組み込む」活動は、今後ますます広がりを見せることと思います。



- ### 参加団体名
- インフルエンザ・脳症の会「小さいのち」
 - 大阪・ひまわりの会
 - かざぐるま「ガン患者と家族の会」
 - 関西口唇口蓋裂児と共に歩む会「大空会」
 - 再生不良性貧血・患者家族の会「A.A.ネットワーク」
 - 腎性尿崩症友の会
 - 全国膠原病友の会
 - 中枢性尿崩症の会
 - 日本ハンチントン病ネットワーク
 - はーとスペースひかみ

関西交流会の中心メンバーである「関西地区口唇口蓋裂児と共に歩む会」の中田智恵海氏は、「このような勉強会などにより、どの団体でも効果的な発表ができる態勢を実現し、医療者からの依頼にいつでも対応できるようにしたい」と訴えました。次回以降、具体的に発表方法を学習することでまとまりました。

第2回ヘルスケア関連団体 東北地区交流会 in 仙台 (2月5日)

ネットワークづくりに向けて、具体的な取り組み始まる

第2回ヘルスケア関連団体東北地区交流会が開催されました。今回初めて参加した団体も加わって、まず第1回目の交流会で提案された共通課題を確認し、具体的にどのような活動に取り組んでいくかをテーマに、活発な議論が交わされました。

前回の交流会では東北地方特有の閉鎖性を取り上げられましたが、今回は、県や地方自治体によって患者や障がい者支援に対する「温度差」が大きいとの指摘があり、各県各団体が要望や現在の状況を強くアピールし、温度差をなくしていこうと意見が一致しました。このような地域特有の問題が浮かび上がることが地域交流会の大きな特徴であり、その開催意義であるといえるでしょう。

また、小学校や医療系大学などの教育現場で当事者や家族による「出前講座」を行い、疾病や障がいと共生する当事者への理解を深めるとともに、子どもや学生の教育に貢献しようとの提案もなされました。さらに前回、制作が決定した東北地区交流会ホームページについても、具体的な取り組みが始まり、東北地区のネットワークづくりは大きく前進したようです。



- ### 参加団体名
- あげばの会福島支部
 - あすなろ会 (若年性リウマチ親の会)
 - がんを考える「ひいらぎの会」
 - CILたすけっと
 - けいはいの会
 - 全国膠原病友の会
 - 全国肢体不自由児者父母の会連合会
 - (財) 仙台市身体障害者福祉協会
 - 仙台ポリオの会
 - タートルの会 (中途視覚障害者の復職を考える会)
 - (社) 日本オストミー協会
 - 日本コンチネンス協会
 - (社) 日本リウマチの会
 - パンダハウスを育てる会
 - ピンクのリボン
 - 福島県腎臓病患者連絡協議会
 - 宮城県喉頭摘出者福祉協会 立声会
 - 宮城県腎臓病患者連絡協議会
 - 宮城県脊髄損傷者連合会
 - 東北福祉大学

CONTENTS

まねきねこ4号・目次

1・2	活動レポート第4回(2005) ヘルスケア関連団体活動報告
3・4	クローズアップ第4回 ていんさぐの会 事務局長 沖縄県立那覇病院小児科 宮城 雅也先生
5	マネコとキネコの VHO-net ウォッチング 医療のひろば 用語解説 「小児慢性特定疾患治療研究事業」
6	元気の泉 リレーエッセイ 第4回 心と体を元気にしてくれる空手同好会 ヘルスケア関連団体空手同好会
7・8	知恵の泉 HOW TO 第4回 会の運営に役立つハウツー集 難病就労支援 沖縄県難病支援センター 「NPO法人アンビシャス」 事務局長 照喜名 通
EVENT CALENDAR マネコとキネコの 情報ひろば	

全く知らなかった団体同士がつながりを持って、それが有意義だったとの感想が多く、回を重ねることでさらにパワーアップしていきたいと結びました。



佐賀県難病相談・支援センターに15団体、19名が集まり九州地区初の交流会が開催されました。全国に支部を持つ団体から二人で活動している方まで規模や疾病・障がいもさまざま。患者、家族、医療関係者と立場も違う中、自己紹介を通じて現状や問題点を発表しました。その後、グループディスカッションへ。4つの班に分けたことでお互いの距離が縮まり、各班ともかなり白熱した話し合いとなりました。まとめでは、会員の増やし方、運営資金の調達、マスコミの利用方法、就労支援など多彩な分野で具体的なノウハウやアイデアが発表されました。新潟中越地震をきっかけに災害時の対策にも注目。医薬品の確保や電子カルテの普及などが話題に上がりました。また、行政への要望申請では、1団体ではなく数団体がまとまり、共通する項目は「ともに取り組むことで有利性が生まれる」などの意見が出されました。今回の交流会を通じて多彩な情報交換ができたこと、なにより

第1回ヘルスケア関連団体九州地区交流会 in 佐賀(2月19日) 団体同士のつながりの場に

「患者の目から見た医療を知る」患者から学ぶこと」

シンポジウム in 東京(3月6日) 当事者と医療者が一体となったよりよい医療を探る

NPO法人「楽患ねっと」主催による「患者の目から見た医療を知る」患者に学ぶ」シンポジウムが、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。楽患ねっとは、患者さんとその周囲をつなぎ応援する団体で、小学生や中学生、一般に向けて「いのちの授業」や、医療系の学生を対象とした「患者に学ぶ授業」などを行う活動に取り組んでいます。今回のシンポジウムでは「患者の目から見た医療を知る」をテーマに、授業の語り手である当事者と、聞き手の両方が集い、患者の声を聞くことの意味、患者が語ることから得られる可能性などを探りました。



まず、「病気の子どもを持つ親の会」の廣澤直美氏が「いのちの授業」を実演。続いて、坂下裕子氏(病児遺族わかちあいの「小さないのち」代表)、内田スミスあゆみ氏、多和田奈津子氏、開原成允氏(国際医療福祉大学 大学院長)、松月みどり氏(日本板橋病院 看護師長)が参加して「なぜ今、患者の声を聞く事が求められるのか」をテーマにパネルディスカッションが行われました。語り手と聞き手、患者・家族と医療者、それぞれの立場からの「よりよい医療」に対する思いがあふれる、熱のこもった討論が繰り広げられました。



マネコ

「中から外へ向けての活動になってきているね」

キネコ

「いろいろな人が集まって話し合うことで、活動の幅がグーンと広がってくるわ」

なお、今回のパネリストでもある開原成允氏の主導によって、国際医療福祉大学院乃木坂スクールでは、患者の声を医療者に伝える講座も開講され、ヘルスケア関連団体のメンバーが講師として参加しています。

第4回

小児在宅医療基金 ていんさぐの会

■ 事務局長

沖縄県立那覇病院小児科医師

宮城 雅也

■ 副会長

照喜名 重寿

ていんさぐの会は、長期にわたって医療的ケア（障がいケア）が必要な子どもたちの在宅生活や社会参加を支援する活動を行っています。会の名前は親の子に対する強い思いを歌った沖縄民謡『ていんさぐぬ花』から。どんな難病であつても可能な限り子どもを家族の中で育てたい。そんな切実な親の願いを叶えようと、さまざまな分野からボランティアが集まりネットワークを築いています。



活動の状況

発足の目的は人工呼吸器の こどもたちの在宅復帰

1993年の発足当時は「小児在宅人工呼吸療法医療基金 ていんさぐの会」でした。その名の通り在宅療養で使う人工呼吸器を子どもたちに贈ろうと自然発生的に集まり活動がスタートしました。人工呼吸器は1台約200万円。管理にも多大な費用がかかる。とにかく寄付を集めようと奔走し、購入、提供してきました。現在は5台、酸素量を計測するパルスオキシメーター



も30台保有し、どちらも無料でレンタルしています。また、会の名前も「人工呼吸療法がとれた在宅医療基金」となっています。

会員は現在約150名。患者の家族はもちろんのこと、医療機関、研究団体、保健所、訪問看護ステーション、ホームヘルパー、ケースワーカーなど幅広い分野の人々がボランティアで参加しています。家族といっしょ

になって活動することで、どんなサービスを欲しているかがわかり非常にスムーズにことが運びます。県下の病院とのネットワークも密で、どの病院にどんな重症度の子どもがいて、在宅は何名というデータなどの状況も把握しています。病院が在宅療養の細かなノウハウを持っていない場合はていんさぐの会がコーディネートします。消防署の救急隊も協力してくれ緊急時に対応できるようになっています。

総勢130名が参加した、

「がんばれ共和国 in

おきな輪

「ビーチパーティー」と「秋のピクニック」を年1回ずつ開催しています。



Beach Party



なかなか外に出られない子どもたちを海や山に連れて行って遊んでもらう。医療スタッフをはじめ、多くのボランティアがサポートするので親も安心。親同士も話ができて悩みをうちあけることもできます。昨年は、『難病のこども支援全国ネットワーク』との共催で沖縄で初の2泊3日のサマーキャンプを開催しました。名付けて「がんばれ共和国 in おきな輪」。“おきな輪”（沖縄）はまさに私たちのテーマです。県外からの7家族を含めた23家族とボランティア、スタッフ総勢130名が参加し、大成功をおさめました。準備に3年かかりました。チャリティコンサートを開催し資金をつくりました。こちらも切符を売らなくちゃいけないから大変（笑）。人工呼吸器を付けている重度の患児は、費用の点からいうと、飛行機では3席分いるのです。プラス家族ですから。でも、なんとか支援していこうと。みんな仕事をもつボランティアばかり。その仕事に支障が出るほど準備は大変でした。作業をどれだけ分担していくかが今後の課題です。

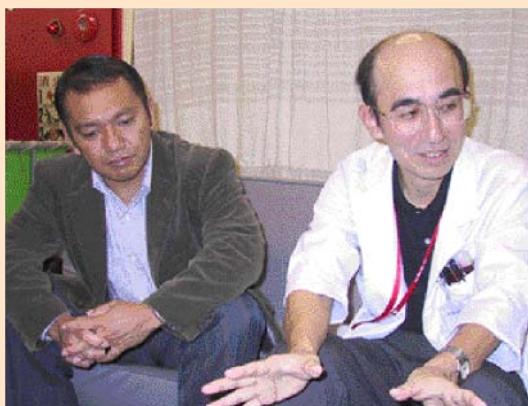
「障がいケア」から

「障がいケア」へ みんなでケアしていこう

難病の子どもたちのケアには福祉が

手を出せないことが多いんです。それをなんとかしたい。ホームヘルパーへの指導を始めています。厚生労働省が出した、ALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者にのみホームヘルパーが吸引を行ってもいいという方針が突破口でした。患者それぞれのケースを検討し、主治医がいんさぐの会に入っていない場合は指導医を置いてやろうと。保育園も受け入れに積極的です。けれども親がつきつきりでなくてはだめ。だからまず看護師やホームヘルパーを置き、最終的には保母がケアをできるようにしようと思っています。看護師が技術を指導し、主治医、親、園長全員が見て大丈夫となれば修了書を出す。もちろんなかあった場合に備えてすべて契約書類を作る。まずは導尿ケアから始めています。医療的ケアと呼ぶと医療従事者しかできない。ていんさぐの会では障がいケアと名前を変えました。そうするとみんな入りやすいのです。親ができるケアが、なぜ他人だとならないのか。それを突破していかないと子どもたちのQOLは上がらないかんです。学生ボランティアへの在宅医療の基礎講座もスタートします。そこにホームヘルパーも参加したいと言ってきてくれました。講師ボランティアは会にたくさん

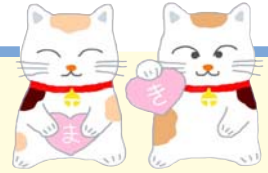
います。医療、福祉、教育が合体したネットワークができつつあります。全国大会などで発表するとよくこのネットワークのことを聞かれます。どうしているのかと。質問の意味がわからないんですよ（笑）。「普通にやっていますよ」としか言えない。自然とみんなが集まってくる。沖縄には“ゆいまある（相互扶助）”の精神、“会えば兄弟”という風土が今も強く残っているからかもしれません。



組織の概要

- 1993年7月 設立
- 役員 20名
- 会員数 約150名
- 事務局 沖縄県那覇市

マネコとキネコの VHO-netウォッチング



<http://www.vho-net.org/>

医療のひろば

用語解説

「小児慢性特定疾患治療研究事業」

小児慢性疾患のうち、喘息、小児がんや慢性腎疾患、糖尿病を含む特定の疾患については、これらの疾患の治療方法に関する研究を進め、



併せて慢性疾患を持つ子どもの家族の医療費負担軽減にも資することを目的として、小児慢性特定疾患治療研究事業が1974年度以来実施されてきました。対象となる疾患は488あります。この事業のもとでは、医療費のうち患者による自己負担部分の全額が国や都道府県などにより公費負担されてきました。

小児慢性特定疾患治療研究事業が制度化されてから四半世紀がたち、小児慢性疾患の実態や医学の進歩による治療状況が変化してきたため、今後の事業のあり方と実施に関する検討会が設置されて制度の課題や方向性を中心に整理が行われました。検討会では平成13年9月から平成14年6月にかけて10回の会議が開催され、医療、患者団体、行政、福祉、教育、報道機関など幅広い分野の関係者が集まりました。

その結果、研究のための治療という位置付けで実施されてきた小児慢性特定疾患治療研究事業の根拠規定が児童福祉法に置かれることになり、改正児童福祉法のもとで平成17年4月1日から施行されることになりました。制度の内容については、主に対象疾患、対象年齢、給付範囲、患者負担について次のように見直されました。

1 対象疾患の拡大と症状が重い児童への重点化

従来の10疾患群から慢性消化器疾患を加えた11疾患群に拡大されます。対象となる総疾患数も約20程度増え、約510疾患となります。

今回の見直しで治療方法の確立及び普及が強く求められる慢性疾患が追加された一方で、医療技術の進歩等により急性期の治療で治ることが多い疾患、または比較的症状が軽度な一部の疾患が対象から除外されます。また、疾患の特異性に応じ、症状、検査値、治療内容による認定基準が見直され、症状が重い児童への支援に、より重点が置かれるようになります。

2 対象年齢の延長

従来は原則として18歳未満の児童を対象としており、一部の疾患について引き続き治療が必要な児童については20歳未満まで延長されていました。新しい制度も原則として18歳未満を対象としていますが、20歳未満まで延長される場合には疾患にかかわらず対象となります。20歳を超過した場合は、小児慢性特定疾患治療研究事業による医療費の助成は終了し、その後は、利用できる医療費助成制度が児童の疾患等の条件によって変わってきます。

3 通院への給付拡大

従来は通院に対する給付の取り扱いが疾患によって異なっていましたが、4月以降は全ての疾患群で通院が給付の対象となります。

4 患者自己負担の導入

従来は患者の自己負担部分は全て公費でまかなわれていましたが、4月からは重症度と生計中心者の所得に応じて自己負担が生じるようになります。同じ月に同じ医療機関で診療を受けても、入院と外来による診療が別の期間に行われた場合は、入院、外来それぞれに一部負担額が生じます。病状が重い「重症者認定」を受けている方、所得税、住民税とも非課税の方については自己負担はありませんが、それ以外の方については生計中心者の所得に応じて段階的な自己負担（上限月額外来5,750円、入院では11,500円）が生じます。

5 その他の改善点

福祉サービスとして、新たに小児慢性特定疾患児養育経験者等による相談事業や小児慢性特定疾患児に対する日常生活用具の給付が行われることになりました。また、小児慢性特定疾患事業の効果的運用のために実施状況等の評価が行われることになっています。

■小児慢性特定疾患治療研究事業の実施主体は都道府県、指定都市及び中核市です。詳しくは最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

●参考：小児慢性特定疾患事業の対象となる11疾患群

悪性新生物	内分泌疾患	慢性血液疾患・免疫疾患
慢性腎疾患	膠原病	神経・筋疾患
慢性呼吸器疾患	糖尿病	慢性消化器疾患(追加)
慢性心疾患	先天性代謝異常	



心と体を元気にしてくれる空手同好会

今回は、ワークショップの元気の泉とも言えそうな、ヘルスケア関連団体の空手同好会をご紹介します。

ヘルスケア関連団体の支援活動にかかわる喜島智香子さん(ファイザー株式会社)が松涛館流の空手の有段者であり、社内や目黒区で空手の指導をしていることを世話人会のメンバーが知り「ぜひ私たちも空手を学びたい…」と同好会がスタートしました。現在は、ヘルスケア関連団体の世話人会の会議後に、ファイザー(株)のトレーニングルームに集まり、稽古を行っています。なかには昇級昇段審査に挑戦して将来は「黒帯」をめざしているメンバーもいます。2003年の第3回ワークショップの際には、アトラクションの一つとして空手の「演武」を披露し、喝采をあげました。

「空手」というと「瓦割り」や激しい格闘技のイメージがありますが、ヘルスケア関連団体同好会の活動では、伝統空手の「形」を中心に稽古しています。精神を集中して、体のすべてを駆使して表現される「形」は、スポーツと言うより一つの「美しい芸術」のような印象があります。また場所を選ばず、体力や体調、年齢に合わせて、自分なりの稽古ができるのも空手の特徴です。子どもからお年寄りまで、その年齢に応じた空手があり、左右の筋肉を均等に使うのでバランスのよい運動になり、脳も活性化するといわれています。しかも、自分のペースでできるので、障がいのある人や、手術を受けた人の運動療法のひとつとしても活用することもできます。

同好会のメンバーは、「ふだんでも体が自然に動くようになった」「トレーニング日の翌朝は、すっきりと起きられる」「姿勢や筋肉など自分の体がわかるようになった」「仲間と一緒に稽古できて楽しい」と語ります。そして、仕事や家庭、ヘルスケア関連団体の活動に忙しく追われる毎日のなかで、すべてを忘れて空手の稽古に集中することは、とてもよい気分転換になり、結局、仕事や活動にもよい形で返ってくるようです。

心技体と言われるように、勝負に勝つ人は、技や体だけでなく、心も充実していることが必要なのだそうです。常に謙虚な気持ちを持つことが求められています。毎日の暮らしのなかに、空手のように打ち込める「何か」があると、いつそう元気ががんばれるということを感じました。

■ヘルスケア関連団体空手同好会

喜島智香子：ファイザー株式会社

高城美香：ゴーシェハウス

中田智恵海：関西地区口唇口蓋裂児と共に歩む会

富樫美佐子：あけぼの会事務局

増田一世：(社)やどかりの里



ファイザー株式会社 本社内にて

HOW TO

第4回

会の運営に役立つハウツー集

難病就労支援

自分たちで仕事を創る、
自立系就労支援を目指して。

NPO法人アンビシヤス 沖縄県難病支援センター

事務局長 照喜名 通

照喜名通さんは自身のクローン病発症を機に、膠原病患者会と協力し沖縄県難病支援センターを設立。2002年2月には「NPO法人アンビシヤス」を立ち上げ事務局長に就任しました。積極的な就労支援を行い、首里城のお土産シヨップ運営とその商品開発、人脈を生かした支援など、アイデア満載の照喜名さんに難病就労支援の手法を伺いました。



.....
健康者と障がい者のはざまで！
アンビシヤス設立の経緯。

消化器に発症する原因不明の難病、クローン病にかかったのが97年。沖縄県の患者会「クローン友の会」に入会し活動していましたが、そのうち自分の病気のことで仕事ができたらいいなと思いつつ脱サラ。無謀でした(笑)。最初は福祉作業所のようなものをつくる目的で行政に相談に行きましたが作業所は障がい者向け。障がい者でも健康者でもない、そのはざまにいる難病者に就労の支援制度がなかったのです。そんなとき、現アンビシヤスの理事長、迫幸治さんと出会いました。社会貢献事業も行っている企業の社長で資金援助を申し出てくれ、沖縄県難病支援センターを立ち上げることが出来ました。同時に那覇市のNPO活動支援センターなどで勉強をし、センター発足の翌年にNPO法人アンビシヤスが誕生しました。

.....
シヨップ経営、商品企画……
自主事業から仕事が派生。

難病患者への就労支援では現在、約20名がメンバー登録をしています。得意分野や病状を明記してもらい、会社や団体から依頼があれば紹介しています。封入作業や電話調査、駐車場整理、受付など大半がスポットの仕事です。首里城でのお土産シヨップ「笑店」の経営は自主事業の柱。店舗の一般公募が



あり運良く抽選に当たったのです。そこでメンバー6名がワークシェアリングで働いています。でも急な入院など難病者にとってサービス業は難しい。だから在宅でできる製造業を強化していこうとオリジナル商品を企画。沖縄の赤瓦でつくった携帯ストラップ、エプロンの縫製、Tシャツのタグ付けなど、いろいろな仕事が生かされています。首里城ショップはアンビシャス最大の雇用場所です。こちらは自分たちで仕事を創っていく自立系を目指しています。もちろんハローワークとの連携も大切。沖縄県では03年から障がい者のトライアル雇用が難病者にも適用され、このメンバーも企業に採用されています。

.....
理事は幅広く募り、視野を広げる。

アンビシャスは現在、正会員17名(内、理事9名)、賛助会員約120名、法人会員38団体で運営しています。正会員は総会参加への義務があり議決権をもつ重要な立場にあるので、なるべく正会員を少なくし理事主導型にしています。理事は患者当事者4名、企業から4名、他のNPO法人から1名の構成です。私の戦略ですが理事には立場の違う人間がいる方が視野が拡がり偏らないと思います。就労支援に対して、いろいろな分野で仕事をしてき



た経験や知識からさまざまなアドバイスがもらえます。最近も、あるスペースを使ってカフェをしないかという話がありました。私はなんでもやってみるタイプなので理事会にかけたのですが見事、却下(笑)。飲食業は競争が激しく、保健所の問題や残った食品の処理などリスクが高すぎるということです。なるほどと思います。私自身、異業種交流会などに積極的に参加してきましたが、そこで培った人脈が今の活動に大いに役立っていると思います。

.....
「テルキナ、あなたはやりすぎ。仕事をもっと小さくしなさい」

05年度から沖縄県の難病者支援センターとしての委託事業がスタートします。でも行政に対しても下請けでは

なく協働というスタンスを崩さず、これまでの自主事業との2枚看板でやっていく方針です。アンビシャスをやってきて一番、難しいなと思うことは仕事の分担です。運営や就労支援の企画や採配にしてもどうしても私がやりすぎてしまう。自分が手を抜くとダメになるという意識が働くんですね。オーストラリアを視察したとき、環境

NPOの先駆者、ジル・ジョーダンさんに言われました。「テルキナ、あなたはやりすぎよ。仕事をもっと小さくしなさい。母親が全部、やってしまったら子どもは育たない」と。できるだけ仕事を分担し人材を育成していくことを学びました。そうしないと就労支援も広がらないし、組織も強く大きくなっていかないと実感しています。



EVENT CALENDAR

■ 平成17年度日本ALS協会
定期総会

5月28日(土) 13:00~17:00
東京・新宿/戸山サンライズ

■ 社団法人日本てんかん協会
第28回全国総会

5月29日(日) 13:00~17:00
東京・新宿/日本青年館

■ 日本患者・家族団体協議会と全国難病
団体連絡協議会組織合同大会

5月29日(日) 15:05~16:30
東京グランドホテル

■ 再生つばさの会総会 &
シンポジウム

6月11日(土) 11:00~
江戸東京博物館ホール

■ 全国パーキンソン病友の会
第29回総会 & 大会

6月16・17日(木・金)
国立オリンピック記念青少年総合センター

■ 静岡県難病団体連絡協議会
第20回定期総会

7月10日(日) 10:30~12:00

第51回難病医療・生活相談会

7月10日(日) 13:00~16:00
静岡市/静岡県総合社会福祉会館



マネコとキノコの 情報ひろば

■ 三好耳鼻咽喉科クリニック(三好 彰)

● 書籍紹介

まんが「愛しのダニ・ボーイ

タローくんとかユミちゃんの場合」

HP: <http://www.3443.or.jp/>

医学コミックシリーズの第一弾として1995年に、「スギ花粉症・ハクシヨンコミック 美人アナ花子さんの場合」を出版しました。初めての試みとあって試行錯誤を重ねての出版でしたが、ユニークな試みとして高い評価を得ることができました。しかし10年前に書かれた内容は、多少時代を感じさせるものとなり、その後の10年間に明らかになったアレルギー性鼻炎に関する最新の知識を盛り込んだものとして制作しました。期待して味読していただけると幸いです。

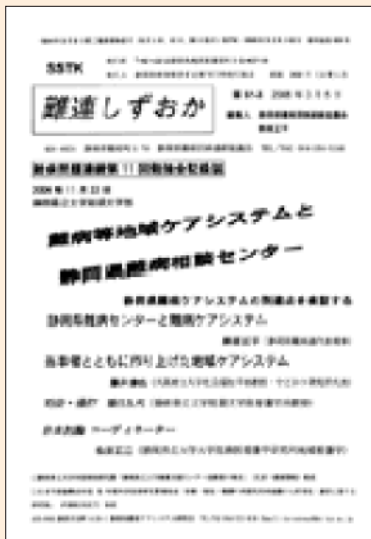


■ 静岡県難病団体連絡協議会

● 書籍紹介

「難達しずおか」51・3号

難病等地域ケアシステムと静岡県難病相談センターを特集。難病患者が地域で普通に生活できる地域づくりの静岡県における到達点を検証し、今後の課題を明らかにする勉強会の記録です。



メッセージ

組織変更のお知らせ

このたび、ファイザー株式会社では、「コミュニティ・リレーション部」を新設し、ヘルスケア関連団体を支援する「パーシエント・リレーションズ活動」と、主に地域コミュニティを中心としたNPO支援ならびに社員のボランティア活動を促進する「社会貢献活動」を二元化すること致しました。この融合により、それぞれの活動で培ってまいりましたネットワーク、情報、様々な支援活動、及び社員の参加促進がいつそう強化され、全国の様々なグループの方々との協同作業をいっそう強化することができるようものと確信しております。今後ともよろしく願っています。



マネコ & キノコ

ヘルスケア関連団体ネットワークの Mascot は、招き猫。人を招き、ネットワークを広げようという意味が込められています。「まねきねこ」の Mascot のマネコ & キノコは、みなさまの「声」が届くのを心待ちにしています。よろしく、お願いいたします。

読者の声、募集中

「まねきねこ」は、読者のみなさまからの情報提供を歓迎します。同封のアンケート用紙または、自由な形式でご意見や情報をお送りください。

まねきねこ 2005年春号

発行：ファイザー株式会社
コミュニティ・リレーション部



「まねきねこ」はヘルスケア関連団体のネットワークづくりを支援するニュースレターです。

内容に関するお問い合わせは、ファイザー株式会社 コミュニティ・リレーション部までお願いします。

T151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
新宿文化クイントビル

電話 03(5309)6720

ファックス 03(5309)9004

メールアドレス manekineko.jinfo@pfizer.com

情報提供、協力

